

第 41 回関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会
研究紀要



期日：平成 17 年 11 月 1 日(火)

会場：水上館(群馬県みなかみ町)

主 催

関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援

群馬県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県・みなかみ町各教育委員会
群馬県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県各中学校長会

研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるのが大切なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている「生きる力」とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」だと考えます。その力を育成するために教科、道徳、総合的学習、そして特別活動があります。教科は学問から、道徳は生き方・あり方から、総合的学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できないものとの出会い・ふれあいを通して、“学びの創造”に取り組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

今日各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、子どもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「修学旅行における『学び』の創造」を掲げ、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

目 次

1	研究発表会次第	1	
2	あいさつ		
	関東地区公立中学校修学旅行委員会会長	川 嶋 勝 芳	2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中 西 朗	3
3	研究発表		
	主題 「修学旅行における『学び』の創造」		
	・発表 1		5
	「見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良」		
	－体験的な活動を通して成長する生徒を目指して－		
	沼田市立薄根中学校	小 淵 誠 教諭	
		須 田 秀 昭 教諭	
	・発表 2		19
	「生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行」		
	－総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して－		
	渋川市立金島中学校	栗 原 和 彦 教諭	
4	指導講評		32
	群馬県教育委員会義務教育課 指導主事 鈴木 佳子 先生		
5	研究発表のあゆみ		34

研究発表会次第

1 大会主題 「修学旅行における『学び』の創造」

2 日 程

(1) 受付 (13:00～13:30)

(2) 開会行事 (13:30～13:50)

・ 開会のことば

関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 中山 邦 男

・ 主催者あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 川 嶋 勝 芳

財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中 西 朗

・ 来賓祝辞

群馬県教育委員会教育長 内 山 征 洋 様

みなかみ町教育委員会教育長 登 坂 義 衛 様

・ 来賓及び指導者紹介

(3) 研究発表 (13:50～15:00)

・ 関修委の調査研究及び活動報告

関修委研究委員会委員長 治 田 正

・ 発表 1

「見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良」

-体験的な活動を通して成長する生徒を目指して-

沼田市立薄根中学校 小 淵 誠 教諭

須 田 秀 昭 教諭

・ 発表 2

「生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行」

-総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して-

渋川市立金島中学校 栗 原 和 彦 教諭

(4) 休 憩 (15:00～15:15)

(5) 研究協議 (15:15～15:45)

(6) 指導講評 (15:45～16:05)

群馬県教育委員会義務教育課 指導主事 鈴 木 佳 子 様

(7) 閉会行事 (16:05～16:15)

・ 閉会の言葉

群馬県中学校修学旅行委員会事務局長 土 屋 力 三

・ 諸連絡

研究発表会の開催に当たって



関東地区公立中学校修学旅行委員会
会長 川嶋勝芳
(群馬県前橋市立元総社中学校校長)

第41回を迎える関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

二十一世紀に入り、世界史は激動の時代に突入した観があります。世紀の区切りと歴史は無関係の筈ではありますが、恰も呼応したかの如くに見えます。日々の報道に目を通しますと、これ迄、水面下に潜んでいた様々な問題が一気に爆発したような感じです。激動の原因は多岐に渡り、何れも解決困難と思えるようなものばかりであります。以て、今後の世界情勢は全く予断を許しません。さて、振り返って我が国も世界史と同様、歴史の大きな曲がり角に直面している事は明らかな事と思われまふ。国内政治の世界にも大きな波が押し寄せているようではありますが、それは教育界も同様なことと思ひます。なかでも、義務教育費国庫負担法の在り方は地方分権の考えとも相俟ってなかなか難しい問題であります。これを機会に、義務教育の諸問題が様々な会議で議論されたことは、望外の、また大いに意義のあつたことと思ひます。義務教育は教育の根幹であり、それは、また国の形を決める基ともなるものであります。十分時間をかけて良い制度を作ってもらいたいと願うばかりです。

さて、修学旅行は義務教育の中でも最大の行事であります。その行事に焦点を当てて研究を行つてきたのが関東地区公立中学校修学旅行委員会であります。所謂、教科の研究とは大いに違ふ面がありますが、立派な日本人を育てる、また、生きる力を身につけると言う意味に於いては意図するところは全く同様であります。それどころか、現実社会の体験を通して学ぶと言う意味に於いては、修学旅行は学校教育に不可欠な存在と言えるでしょう。その修学旅行の在り方も、戦後の貧しい時代を思い返す時、正に隔世の感があります。東京から京都まで十数時間も要したのが、交通機関の発達により、今や三時間も掛からずに到着し、一流のホテルに宿泊することが出来ます。このような輸送インフラの変化の中で、様々な形態の修学旅行を実施し、研究してきたのが関東地区公立中学校修学旅行委員会であります。今後も引き続き各方面の要望に応えられるよう、緻密な研究を継続していきたいと考えております。最後に、本研究会を開催するに当たり、御指導御助言を頂きました群馬県教育委員会、みなかみ町教育委員会、群馬県中学校長会並びに関係諸団体、更に、研究発表会の運営に携わつてこられました財団法人全国修学旅行研究協会、群馬県中学校修学旅行委員会の皆様に厚く御礼申し上げます次第でございます。

関東地区公立中学校

修学旅行研究発表会の開催にあたって



財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中西 朗

各方面のご支援を受け、ここに、第41回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。この開催にあたり、関東地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会、特に開催地の水上町教育委員会、各県の中学校長会のご支援とご尽力に心から御礼申し上げます。

私たち人間にとって「旅」とはどのような意味合いがあるのでしょうか。

この世に生を受けて、家庭という世界での生活が始まります。小学校に行くようになると、新たな学校という世界が出現し、そこに一つの人生の転換期が訪れるのです。中学校入学も大きな転換期といえましょう。このように、人間の一生を通して、自分を取り巻く世界が拡大していきます。その未知の世界の広がり、人生の「旅」なのでしょう。ですから、これからの世界への期待や憧れが生まれるのです。

しかし同時に、その世界には多くの混乱や危険が伴います。その困難を自分なりに乗り越えることによって人間的な成長が図られます。『かわいい子には旅をさせよ』というのは、「異なった生活を通して世間の実情を認識させる」という人間的成長を期待した言葉でしょう。修学旅行も、この一環です。見聞・体験・交友など、新しい発見を通して学び得たものであるからこそ、学校生活の大きな思い出となるのでしょう。

先生方には、このような子ども一人一人の世界の広がりを見守っていくことが責務となります。その時起きるであろうリスクを最小限に食い止めて、健全な成長が図られるよう支援しなければなりません。同様に、修学旅行においても学習の充実や生活の安全を確保しなければなりません。

このような視点から、今回の大会主題は、「修学旅行における『学び』の創造」としました。発表内容も、「私だけの発見」「自主的な活動」と、個の対応が重視され、見て、聞いて、体験するという実践的取り組みが展開されています。期待をもってお聞きしたいと思います。この実践は、私どもに多くの示唆を与えてくれることでしょう。ご努力に敬意と感謝を申し上げます。

最後になりましたが、ご指導いただきます群馬県教育委員会義務教育課指導主事 鈴木佳子先生に心から御礼申し上げます。

見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良

～体験的な活動を通して成長する生徒を目指して～

沼田市立薄根中学校

教諭 小渕 誠

教諭 須田 秀昭

I はじめに

II テーマ設定の理由

III 実践①「修学旅行までの取組」

- 1 1年生での実践「横浜旅行」
- 2 2年生での実践「東京旅行」
- 3 3年生での実践

IV 実践②「修学旅行」

V 実践③「修学旅行後の取組」

- 1 ホームページ作り
- 2 旅行記作り

VI 成果と課題

- 1 成果
- 2 課題

I はじめに

本校は、群馬県北部に位置する沼田市にあり、隣接する薄根小学校から入学してくる生徒がほとんどである。沼田市は、赤城山や武尊山などの山々に囲まれた自然豊かなところで、標高は250mから2000m余りに及ぶ起伏に富んだ地形となっており、本校は標高394mに位置している。市街地は南北に流れる利根川とその支流の片品川、薄根川により形成された日本一の河岸段丘上に広がっている。「玉原高原」や「吹割の滝（国指定文化財）」をはじめ、豊富な温泉やリゾート施設など観光地として年間を通し多くの人を訪れている。平成17年2月13日には、利根郡白沢村、同郡利根村と合併し、現在の人口は55,602人となっている。

沼田市内には9つの中学校がある。本校は生徒数218名が在籍、8学級で3番目の生徒数である。親子で取り組む「花いっぱい活動」や生徒会、PTA、地域住民を中心とした「リサイクル活動」、生徒・保護者・教師が一体となって取り組んでいる「あいさつ運動」などは、10年以上前から続いている大切な行事である。部活動も盛んで、最近では卓球部が個人や団体で全国大会出場、2年前は団体において全国3位の実績を残している。



II テーマ設定の理由

本校では、知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成に努めている。具体的な生徒像として

- 「英知」 自ら学び、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒
- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒

を目指している。

第3学年では、

- 「英知」 学習や生活に対して自ら進んで考え、正しく判断し、行動できる生徒
- 「健康」 健康を管理し、目標に向かって最後までやり抜く気力と体力を身に付けている生徒
- 「友愛」 互いの立場を理解し、友情を深められる生徒

を目標として取り組んでいる。

また、「自ら学び、自ら考える生徒の育成」を校内研修の研究主題として数年来にわたって取り組んできている。この取り組みによって、生徒自身がこれまでの学習や活動によって得られた結果を把握し、学習や活動の目的に対する自分の取組を判断し、今後の学習や活動の仕方を考え、実践していく力を身に付けさせることによって、

- 学ぶ喜びを感じ、進んで学習に取り組むことができる生徒
- 目的に応じて学習の仕方を工夫することができる生徒
- 自分の考えをよりよく表現することができる生徒

の育成に努めてきた。

これらの取組と関連を図りながら、特別活動における学校行事の「旅行・集団宿泊的行事」における「平素とは異なる生活環境において、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行う」ことをねらいとした修学旅行を実施する必要があると考える。また、日本の文化に触れる中で友情を深め合いながら思い出に残る行事とすることが、最高学年の集団としての団結を深め、物事に積極的に取り組む生徒の育成とリーダーとしての資質の向上を図れると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 実践①「修学旅行までの取組」

1 1年生での実践「横浜旅行」

(1) ねらい

- ・旅行のねらいや意義を理解させ、班行動の計画や班行動の目標を立てさせる。
- ・班行動を通して、自己の役割と班員としての自覚を持たせるとともに、互いに助け合う態度と心情を育てる。
- ・平素と異なる生活環境にあって、集団生活の在り方を学ぶとともに、公共交通機関の利用に慣れ、安全に旅行しようとする態度や社会性（公衆道徳）を身に付けさせる。
- ・歴史的建造物や文化的施設が多数ある横浜において、歴史や文化に触れることで歴史や文化に対する興味・関心が深められるようにする。

(2) 実施方法

学年全体を11の班に編制して班別行動で平成15年10月2日に実施した。必ず見学する場所として3つを指定し、その中を含む見学地を班毎に計画させた。

○必ず見学する場所

- ・横浜開港資料館
- ・横浜美術館
- ・三菱みなとみらい技術館

○その他の見学場所

- ・マリンタワー
- ・横浜人形の家
- ・シルク博物館
- ・氷川丸
- ・横浜中華街
- ・日本丸メモリアルパーク
- ・横浜スタジアム
- ・港が見える丘公園 等

班別行動の準備、計画から実際の活動までを経験することで、班別行動の良さや大変さを実感することができた。また、学級や学年の集団としてまとまりが感じられる時期の実施であったので、よりよい集団作りとしても有効であった。



2 2年生での実践「東京旅行」

(1) ねらい

- ・班行動を通して、自己の役割に責任と自覚をもたせるとともに、お互いに助け合い協力し合う態度と心情を育てる。
- ・政治、経済、文化の中心である東京において、新旧の数多くの建造物や施設に触れ、歴史や文化等に対する興味や関心を深めさせるとともに見聞を広める。
- ・電車等の交通公共機関の利用に慣れ、安全に旅行しようとする態度と公衆道徳等の社会性を身に付けさせる。

(2) 実施方法

学年全体を11の班に編制して班別行動で平成16年10月5日に実施した。見学地は、政治や経済、歴史や文化に係る施設や場所を班毎に計画させ、実施した。

○主な見学場所

- ・浅草寺 ・フジテレビ ・国会議事堂 ・国立科学博物館 ・明治神宮
- ・水の科学館 ・電力館 ・古代オリエント博物館 ・都庁 ・秋葉原電気街
- ・日銀金融研究所紙幣博物館 ・原宿 等



本校の生徒は、生活環境から交通手段は保護者の自動車ほとんどである。電車やバスなどの公共機関を利用することが少ないことから、班別行動の移動手段として電車等の交通公共機関を利用することに慣れることは、3学年の修学旅行のためにも必要であった。また、安全に旅行しようとする態度と公衆道徳等の社会性を身に付けさせることにも有効であった。班によっては、計画通り行動できない状況もあったが、臨機応変に交通機関を工夫したり、見学時間を調節したりする様子が見られた。

3 3年生での実践

(1) 班編制

2日間が班別行動となるので、班編制は修学旅行の目的を達成するために重要な活動と考えた。そこで、2学年3学期に「学級の枠」にとらわれない班編制を行うこととした。学年全体として取り組む重要な活動であるという意識と「学習の場」として京都・奈良に行くという意識をもたせることができたと思う。

(2) 宿題作り

楽しい思い出となる修学旅行だが、「また、京都・奈良にいつてみたい」「もっと京都・奈良を知りたい」「他の場所の日本文化の触れてみたい」など生徒の生き方につながる修学旅行にするためには目的をもって見学地を訪れることが重要と考えた。また、実際に見学地を訪れて「もっと知りたい」「他はどうだろう」「自分の故郷はどうだったろう」などの新たな疑問や欲求がでてくることをねらいとして、事前に「宿題」と称して【見て追究する】【聞いて追究する】【体験して追究する】ための課題

を見学地毎に各班に設定させた。

修学旅行プリント：No 4（表）

見て、聞いて、体験して 自分だけの京都・奈良を見付けよう！！

_____ 班

見たから、聞いたから、行ったから分かった、発見した、
もっと知りたい調べてみたいと思った

場所名			
拝観料	円	拝観時間	
駅・バス停		駅・バス停からの徒歩時間	分
どんなところか			
見たいところは			

修学旅行プリント：No 4（裏）

聞きたいことは

行ってみないとわからないことは

楽しみにしていることは

○宿題の例 ※（ ）内は見学地または体験場所

- ・千手観音像の前にある二十八武衆立像はどんな意味で置かれているのか（三十三間堂）
- ・なぜ、学問の神様と言われるようになったのか（北野天満宮）
- ・將軍の居間や寝室のなどの白書院を実際に見てみたい（元離宮二条城）
- ・写真ではなく弥勒菩薩の美しさを確かめてみたい（広隆寺）
- ・平安時代の極楽浄土を再現した庭園を見てみたい（平等院）
- ・ウグイス張りの音を実際に聞いてみたい（元離宮二条城）
- ・どうして柱が赤いのか（八坂神社）
- ・本当に自分と似た顔があるのか（三十三間堂）
- ・安土桃山時代の建物の特徴は何か（北野天満宮）
- ・清水の舞台からの眺めを実際に見てみたい（清水寺）
- ・中国風の精進料理「普茶料理」はどんな味か（萬福寺）
- ・焼き八つ橋で昔から使われている道具を見てみたい（井筒八ッ橋本舗）
- ・池の岸から見る金閣寺の美しさを確かめたい（金閣寺）
- ・自分が想像している銀閣寺と実際の銀閣寺を比べてみる（銀閣寺）
- ・京都のくずきりと他のくずきりの違いは何か（八つ橋庵かけはし）
- ・千手観音像は一つ一つ違う顔なのか（三十三間堂）
- ・鳳凰堂は十円玉と同じなのか（平等院鳳凰堂）
- ・七味唐辛子は、調合によって味や香りが違うのか（アマタ本店）

- ・仁王像は寄木造りだが、木のつぎめはわかるのか（清水寺）
- ・第2次大戦中に京都の仏像が燃えなかったのはなぜか（平等院）
- ・なぜ、牛の像に触ると悪い所が治るのか（北野天満宮）
- ・木目が偉い人の部屋に向かって造られているらしいので確かめたい（仁和寺）
- ・鐘楼を沼田公園にあるものと比べたい（法隆寺）
- ・どんな道具で京菓子を作るのか（総本家よし廣）
- ・2年生で学習した徒然草にでてくる場所なので実際に見てみたい（仁和寺）
- ・売っている八つ橋と自分たちが作った八つ橋の比べてみたい（八つ橋庵とししゅうやかた）
- ・金堂の中央部の屋根が一段切り上げられた建築様式をとっているのはなぜか（東寺）
- ・火災を防いだと言われる大銀杏が写真に載っていないので見たい（西本願寺）

（3）体験学習

地域の方と関わりながら、歴史のある産業や伝統がある職人技への理解を深めるために体験学習を班別行動のなかに計画させた。他の見学地との関係から1～2箇所程度の体験学習となったが、「何を学習したいか」「なぜ学習したいのか」「どこで学習できるのか」「どのくらいの費用でどんな学習ができるのか」等、事前学習から体験学習施設への申込、旅行当日の学習までを生徒に行わせた。話し合った体験学習が相手施設の予約状況や休館日等により3～4回ほど変更せざるを得ない班があったが、その都度話し合いを繰り返して旅行日までには予約を完了することができた。また、申込後に受け入れの返事が電子メールでくるものについては、生徒の状況把握のために担当職員のコンピュータで対応した。



体験学習場所一覧

班	体験場所	体験内容	体験時間	費用一人あたり	電話番号
1	総本家よし廣	京菓子作り	90分間	1,575円	075-811-5554
2	井筒八つ橋京極一番街店	焼き八つ橋作り	45分間	800円	075-255-2121
3	八つ橋庵かけはし	くずきり作り	60分間	750円	075-313-2151
4	アマタ本店	七味唐辛子の調合	40分間	1,050円	075-761-7000
5	舞扇堂きよみず店	京扇子作り	90分間	1,680円	075-532-2001
6	舞扇堂祇園店	京扇子作り	60分間	1,680円	075-532-2002
7	舞扇堂祇園店	京扇子作り	60分間	1,680円	075-532-2002
8	アマタ本店	七味唐辛子の調合	30分間	1,050円	075-761-7000
	総本家よし廣	京菓子作り	90分間	1,575円	075-811-5554
9	八つ橋庵とししゅうやかた	生八つ橋作り	60分間	800円	075-313-2151
10	高橋扇子店	京扇子作り	90分間	2,100円	075-351-0561
11	古代友禅苑	型友禅染	60分間	1,550円	075-823-0500
12	八つ橋庵とししゅうやかた	生八つ橋作り	40分間	840円	075-313-2151

(4) 班別行動

本校では2泊3日の日程で旅行を実施したが、最近では1日目に奈良方面を全体行動、2日目を班別行動、3日目を京都方面を全体行動とすることが多かった。しかし、研究テーマにもあるように生徒自ら行動する修学旅行にしたいと考え、1日目と2日目を班別行動とした。3日目については、新幹線を利用して帰路につくことから学年全体で見学することにした。

また、班別行動の方法として効率的に見学できるタクシーを利用することも考えたが、「自分たちで創る修学旅行」にしたいという理由から公共交通機関を利用したの班別行動とした。

【1日目】	【2日目】	【3日目】
上毛高原駅集合 8:10	宿舎出発 8:00	宿舎出発 8:30
上毛高原駅出発 9:02	※班別行動	清水寺到着 9:00
東京駅出発 10:53	電話連絡 10:00	※記念写真
※新幹線内で昼食	14:00	清水寺出発 11:00
京都駅到着 13:14	宿舎到着 17:30	三十三間堂到着 11:20
京都駅解散 14:00	※1日目と同じ	三十三間堂出発 12:00
※班別行動		京都駅出発 13:32
ホテル到着 17:00		※新幹線内で昼食
		東京駅出発 17:00
		上毛高原到着 18:20
		上毛高原解散 18:40

修学旅行プリント：No5 (表)

修学旅行 班行動 【1日目】 () 班				
班長名		副班長名		
班員名 (係名)				
時刻	拝観場所	移動手段	バス路線、バス停、駅名	拝観料、運賃

修学旅行プリント：No5 (裏)

修学旅行 班行動 【2日目】 () 班				
班長名		副班長名		
班員名 (係名)				
時刻	拝観場所	移動手段	バス路線、バス停、駅名	拝観料、運賃

IV 実践②「修学旅行」

【平成17年5月12日】1日目

修学旅行1日目は、午後1時過ぎに京都駅に到着した。午後2時から5時までが最初の班別行動となった。12の班の内、3つが奈良方面、残りが京都市内の行動であった。また、2つの班では体験学習を行う計画で京都駅から各班毎に出発していった。午前中の移動の疲れが心配されたが、生徒からの緊急連絡もなく、宿舎へ到着する予定時刻までに全員が到着することができた。電車を利用した班の中には、予定場所とは反対方面への電車に乗り込んでしまい途中で引き返すハプニングや電車に乗り込む際に電車とホームの間から靴を落としてしまうなども報告されたが、周りの方に助けられながら班別行動を進めることができた。

「旅行のしおり」より（一部抜粋）

こんな場合はどうする？

1 降りる駅を乗り過ごしてしまった場合は

【全員の時】

- ・次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いて予定の駅に戻れるようにする。

【1人の時】

- ・予定の駅で降りた人は、降りたホームで待つ。（移動しないこと）
- ・乗り過ごした人は、次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いたりして予定の駅に戻れるようにする。ホームにいる班の人を見つけて合流する。（降りたホームとは違う場合が多いのでよく探すこと）

2 電車に乗り損ねた人がいた場合は

- ・乗った人は予定の駅で降り、降りたホームで待つ。（移動しないこと）
- ・乗り損ねた人は、次の電車で予定の駅へ行き、ホームにいる班の人を見つけて合流する。

3 間違っただう電車に乗ってしまった場合は

- ・気づいた時点で次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いたりして乗った駅に戻れるようにする。

4 道に迷ってしまった場合は

- ・派出所や警察官が一番よいが、店の人や信頼できそうな大人の人に聞く。どうしても解決できないときは、本部まで連絡をする。
- ・駅には派出所があったり、駅員さんに聞いたりできるので駅に戻るのもよい。

5 班員がはぐれてしまった場合は

- ①電車の場合は、【1・2のように行動】
- ②見学地の場合は、【本部へ連絡し、指示を受けて行動】
- ③その他の場合は、【グループが分かれてしまったり、1人ではぐれてしまったりしたときは、お互いに本部に連絡し、指示を受けて行動】

【平成17年5月13日】2日目

修学旅行2日目は、午前8時から午後5時30分まで班別行動であった。12の班の内、2つが奈良方面へ、残りが京都市内の行動であった。また、10の班では体験学習を行う計画で宿舎から各班毎に出発していった。やや暑い日となり、生徒の体調も心配されたが教師へ各班よりの定時連絡からは全員が元気に活動している様子が確認できた。また、体験学習にかかる時間が予定より長くなったり短くなったりしたことで、それ以降の計画を修正して班別行動をする班がいくつかあったが、生徒達が状況を判断しながら行動を決定する力が1～2年次の旅行での経験によって身に付けていることを実感した。また、予定していた路線が事故により不通になってしまった班があったが、班内に電車に関する知識が豊富な生徒がいたために他の路線を乗り継いで宿舎に戻ることができた。互いに力を合わせて行動した結果だと感じた。

全国から観光客や修学旅行生などが集まる地域であることから生徒がいらぬトラブルに巻き込まれないように、前夜の班長会議や全体指導の際に行動や服装等の注意を促したが班別行動では落ち着いた様子が見られ、全員が宿舎に集合することができた。

今回の宿舎は、班別行動の利便性を考慮して京都駅から徒歩3～4分の場所あるところを利用することにした。また、同じ宿舎に2泊したことで、慣れるにしたがって宿舎内の生徒の活動に落ち着きが見られるようになった。



「旅行のしおり」より（一部抜粋）

修学旅行を楽しくするために

～事故・事件防止のてびき～

京都、奈良へ修学旅行に来て、犯罪や事故などに巻き込まれたりすると、一生の楽しい思い出が台無しになってしまいます。皆さんが事件・事故や思わぬトラブルに巻き込まれないようにするためにはどうしたら、よいのでしょうか？

【犯罪（非行）・トラブル防止のために】

その1

修学旅行生をねらった恐喝事件が多発しています。修学旅行生は「必ずお金を持ち歩いている」と見られ狙われやすいので、必要なお金しか持ち歩かないようにして下さい。

因縁をつなられそうになったり、被害に遭ったときには、お点こ助けを求めたり、110番して下さい。その後できるだけ早く、先生に連絡を取って下さい。

※京都府内には、「子ども110番のいえ」という緑色の看板を掛けている家やお店があります。困ったときや助けて欲しいときは覗き込んで下さい。



その2

京都には、全国各地から修学旅行生が来ます。観光地や旅館等で些細なことからケンカになることがありますので、言葉遣いや行動には十分注意して下さい。

※服装が乱れていたり、不注意に見えたりすると他校の生徒等に言いがかりをつけられて、暴行されたり恐喝されたりする被害が発生しています。



その3

はしゃいでいて転倒したり、ゲームに夢中になっていて財布を盗まれるなど、ちょっとした不注意が、大きな事故につながるケースがあります。

班行動では、一人一人が注意し合って責任ある行動を取って下さい。

【平成17年5月14日】3日目

修学旅行3日目は、宿舎の出発時刻に若干の余裕があったので宿舎近くの東本願寺まで朝の散歩をした。希望生徒のみだったが、約半数の生徒が6時30分に宿舎前の玄関に集合して出発した。

人通りがほとんど無く、朝のきりっとした空気の中で広い御影堂に驚きつつ、昼間とは違う京都を発見した気分になったように感じた。

帰りの新幹線に乗り込む時刻が決まっていることから、全体行動で清水寺、三十三間堂を見学した。三十三間堂に訪れていた人が少ないこともあったと思うが、全長118mある本堂を30分以上の時間をかけて見学する生徒が多数見られたことは、生徒が何か



を感じ取ろう、発見しようとする態度の表れだろうと思う。

V 実践③「修学旅行後の取組」

1学年、2学年の旅行後は「旅行記」という形で学習のまとめをさせたが、3学年の修学旅行後は「ホームページ」形式と「旅行記」という方法でまとめさせることにした。他の教科等でホームページ作りを学習していることや視覚的に様々な工夫ができること、1つの班が5～6人で編成していたことから2つの方法でも実施可能であることや生徒が取った写真を有効に使えるなどがその理由である。

1 ホームページ作り

本校のコンピュータ室は、40台であることから各班2～3台のコンピュータを使用してまとめをさせた。旅行中に撮影した写真はデジタル化して活用できるようにした。体裁や色、文字、壁紙等に時間をかけるのではなく、自分たちが宿題としたことを中心に見学場所や体験場所などについてまとめるように指導した。今回は、ホームページ形式で作成するが本校のホームページにアップロードはしないが、来年度以降の修学旅行で本校の生徒が活用できるようにしたいと考えている。



作成したホームページの例



2 旅行記作り

ホームページ作りと同時進行で旅行記作りを進めた。ページ数に制限はしなかったが、10～16ページ程度の旅行記が完成した。ホームページと違って、見たいときにすぐ見られる旅行記は自分たちで撮影した写真や見学場所でもらったパンフレット等を活用したり、イラストが得意な生徒が絵を描いたりしながらまとめる姿があった。



作成した旅行記の例



VI 成果と課題

1 成果

- 班編成を学級の枠にとらわれなくて編成したことで、学年全体で取り組む雰囲気を感じられ協力的な行動が多く見られた。
- 見学地毎に宿題を設定させたことで「修学旅行に行ったから見てきた」でなく「◇◇を見るために、◇◇を聞くために、◇◇を体験するために修学旅行に行くんだ」という能動的な意識をもって修学旅行を実施することができた。
- 「持っていく宿題の答えだけでなく、見学場所や体験場所にいったら新しい宿題を見付けよう」と投げかけたことで、漫然と活動するのではなく追究する気持ちをもって活動できた。

○「ホームページ」と「旅行記」という方法でまとめことにより、あらためて日本の貴重な文化遺産や歴史、地理等について考えたり、京都・奈良と自分たちの故郷を比較したりすることができた。

また、旅行記をまとめる際に疑問に思ったことを電話にて質問する生徒がおり、



電話をした京都の寺の方も忙しい中にもかかわらず、数日後にいろいろ調べて丁寧な回答をいただいたことは、生徒の学習意欲を高めることになった。

○体験学習の申込を生徒が行ったことで、旅行前から京都の方とのつながりを感じて体験場所に向かったところ、体験場所でも生徒の名前で出迎えてくれるなど自分たちが計画した旅行であることを実感できた。

○班別行動にできるだけ多くの時間をあてたことで、計画通りいかない状況が時々みられたが集団行動の決まり・公衆道徳・健康安全等を考えながら、その場に応じた行動ができるよい機会とすることができた。また、班員が協力しあって、資料等を利用しながら自分たちの手で自分たちの行動の計画を立てることを通して自主自律の精神を養い、班別行動をしたことで修学旅行の成就感や達成感を感じることができた。

○新しい学級編成になって間もない時期の実施であったので、旅先の生活を通して生徒相互及び教師と生徒の人間関係をより深め合い、学校生活の充実へつながる行事とすることができた。これは、集団や社会の一員としての自覚や責任感を深め、社会性の育成につながるものと考えられる。

2 課題

○本校においては、総合的な学習の時間に事前学習、事後学習を行っているが、総合的な学習の時間としてのねらい、内容を吟味して年間指導計画を含め、検討・改善していく必要があると考える。

○専用臨時列車と在来線を乗り継いで往復するために、帰路において1時間程度の待ち時間があった。時間を有効に使うための工夫が必要である。

○修学旅行前に、生徒がどれだけ京都・奈良での学習に目的をもつことができるかが成就感や達成感を体験するために必要である。この成就感や達成感を体験できるかどうか、その後の生徒を変容させ生き方に影響を与えることにつながると考えると、事前学習の工夫をさらにする必要がある。



生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行

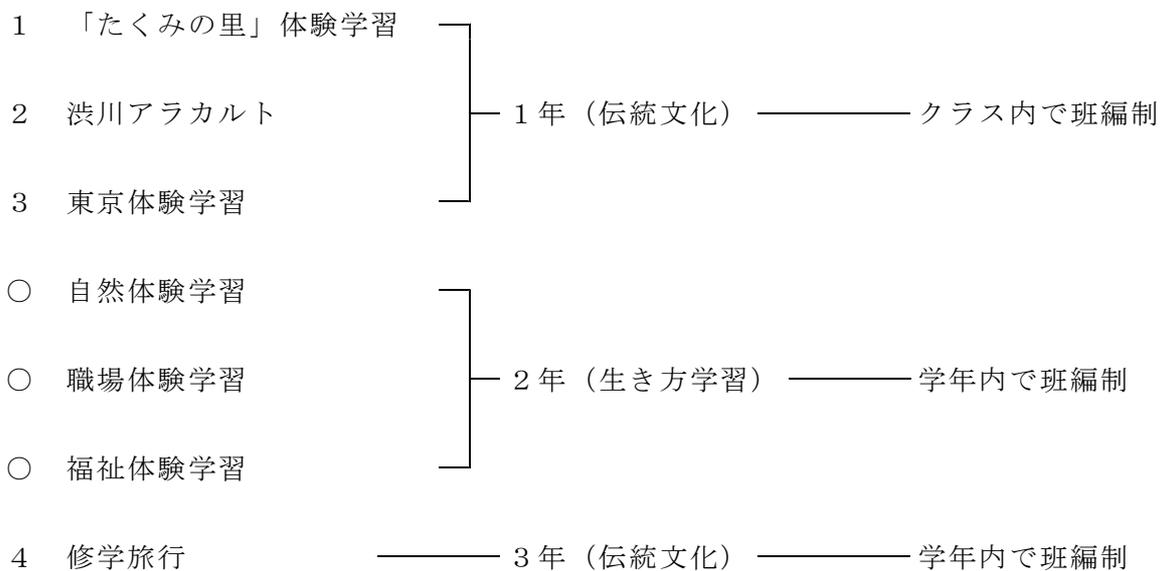
— 総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して —

渋川市立金島中学校 教諭 栗原 和彦

I はじめに

II 活動のねらい

III 具体的な取り組み



IV まとめと今後の課題

- 1 実践の成果
- 2 今後の課題

I はじめに

本校は、群馬県のほぼ中央に位置する渋川市の北西部にある。西に伊香保町と隣接する榛名山東麓の傾斜面に位置し、北東には吾妻川が流れている。地域の史跡や文化財として三国街道十三宿の一つとして発達した金井宿の杓ヶ橋関所跡や甲波宿禰神社、川島獅子舞、本陣地下牢跡、金井製鉄所跡等々がある。平成18年2月には、渋川市は周辺の伊香保町、赤城村、北橋村、子持村との合併し、新「渋川市」として新たなるスタートが決まっている。

本校は、今年度1年から3年の各2クラスと特殊学級のあわせて7クラス、全生徒数225名の小規模校である。生徒会活動では、金中の三本柱として「身支度がきちんとできる金中生・あいさつがきちんとできる金中生・時間がきちんと守れる金中生」を掲げ、生徒の自主的な活動を啓発している。



<校門の生徒会掲示板>

II 活動のねらい

「生きる力を育む活動」として取り入れられた総合的学習は平成14年度の完全実施され、今年度で4年次を迎える。

本校の総合的な学習の時間のねらいは、次の通りである。

- 生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 学びやものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

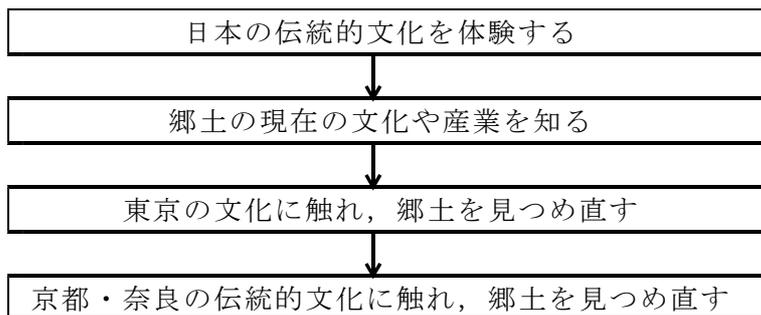
このねらいに即して、総合的な学習の時間において、問題解決的な学習および体験的な学習活動の指導の工夫や次の学習活動に生きる評価の方法等を、3年間にわたって系統的に計画し、学習を生活に生かす力（実践力）を育成しようと実践を重ねている。

生徒が主体的に活動するために「課題を発見する→テーマを設定する→追求する→結果をまとめる→他に働きかける」といった学習過程で適切な支援ができるように方法を工夫し、生徒が自分の思いや考えを生かし、主体的に課題追求を進めていくことができるようにする。また、3年間を通して、1年で学んだ問題解決のスキルが身に付き、次の学習や生活に生かすことができる生徒の育成を考えている。

修学旅行についても、「課題を発見する→テーマを設定する→追求する→結果をまとめる→他に働きかける」といった学習を実践する体験の場として、生徒の自主的活動を促すよう努めている。

また、本校は地域的にも昔ながらの風土や伝統的な行事、文化財等が残っており、身近なことがらを調査・体験することを通して、生徒の興味・関心を高め、生徒の実践力を育成しようと考えている。

3年間の具体的な系統は次の通りである。



修学旅行で歴史的に深い京都や奈良の文化を体験することにより、1年から学んできた郷土の文化をより深く理解し、郷土を愛する心を育むと共に、これからの生き方に生かしていける生徒を育成していきたい。

Ⅲ 具体的な取り組み

1 「たくみの里」体験学習

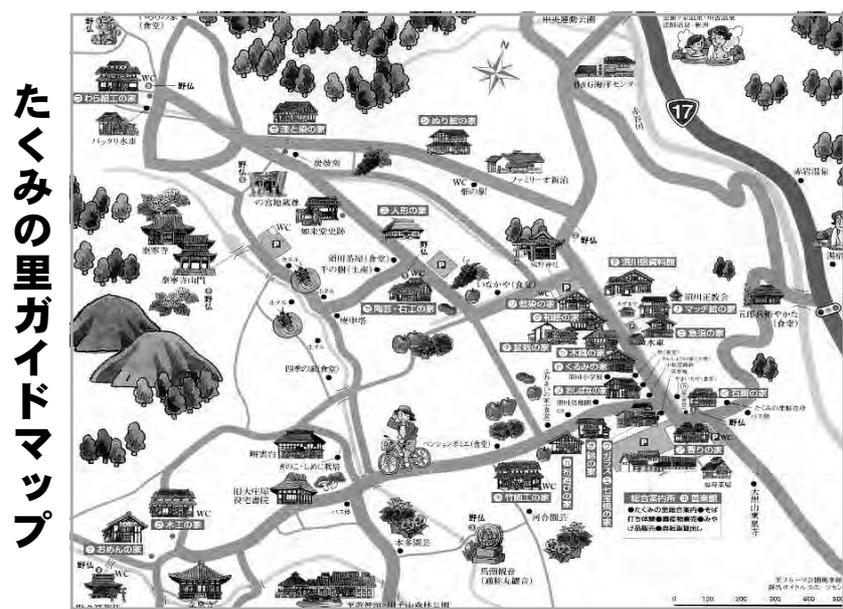
(1) 目的

- 日本の伝統的な文化にふれ、様々な地域の文化を学ぶ意欲を養う。
- 実行委員を中心として、生徒自らの手で行事の計画・実施・まとめを行うことによって、計画的に行事を運営する方法を知るとともに主体的な学習態度を身に付ける。
- 全体行動や班行動を通して、仲間の親睦を深めるとともに規律や協調の大切さに気づき、集団の成員としての自覚と行動を高める。

(2) 活動内容

「たくみの里」は群馬県北部のみなかみ町（旧 新治村）にあり、ガラスの絵付けや藍染めなど山里の伝統的な工芸を今に伝える工房が集まっている地域である。

「たくみの里」体験学習では、生徒たちに総合的な学習の流れを理解させ、基本的な問題解決的な技能を身に付けさせることを目指した。



①課題設定

各班の興味・関心に応じて自由に体験場所を選択させた。また、10:45～15:00を活動時間と決め、所要時間や地図などを参考にさせながら体験の計画も自由に立案させた。計画が立案できたところで、各体験場所の予約電話も生徒自身に行わせた。体験場所の方にとっては面倒なことであるので、事前に趣旨を説明するとともに文書を持参して協力をお願いした。

生徒たちには、体験活動が決まったところで、インターネットを活用させながら体験活動にまつわる基礎的な知識を調べさせるとともに、質問事項等を考えさせた。



<藍染めの家での体験>

体験場所一覧

豊楽館(手打ちそば体験)	和紙の家	藍染めの家
手作り郷土の香の家	くるみの家	七宝焼きの家
木工の家	木織の家	布遊びの家
竹細工の家	おめんの家	ガラスの家
わら細工の家	鈴の家	農産物加工の家
陶芸の家		

②課題追究(体験活動)

生徒たちはほぼ計画通りに自主的に行動することができた。体験場所の指導者の方々も親切に指導していただき、生徒たちの感想も伝統工芸に実際に触れることができてよかった、楽しく活動ができたという意見が多く好評であった。



<ガラスの家での体験>



<おめんの家での体験>



<手打ちそば体験>

③課題のまとめ・発表

事前学習の内容や体験の成果をもとに、模造紙などに成果をまとめ発表することができた。その際、体験の成果である作品や体験の様子なども効果的に用いるよう指導した。生徒たちはクイズや紙芝居など創意工夫を生かして、総合的な学習の時間に学年内で発表することができた。



<紙芝居による発表>

(3) まとめ

「たくみの里」体験学習は、総合的な学習の時間の最初の課題としては「問題解決的な技能の獲得」の下地ができたと言える。特に訪問先に自分で予約をし、行き方を調べるなど自主的に行動する姿が見られた。

2 渋川アラカルト

(1) 目的

- 自ら課題を見つけ、考え、課題を解決していく力を高める。特に、問題解決的な技能の獲得をねらう。
- 調査・体験活動や創造的表現活動などを通して、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。
- 郷土についての認識を高め、郷土に愛着を持ち、学習成果を郷土に還元しようとする意欲や態度を身に付ける。

(2) 活動内容

主として「地域」「郷土」に視点を当てて、「渋川市を知ろう」という共通テーマ、題して『渋川アラカルト』というテーマで総合的な学習を進めた。学習形態は学級ごとの班単位とすることにし、各自の興味や関心を考慮して班編成を行い、課題設定の段階でも十分に意見を出し合わせるよう配慮した。

①課題設定

「たくみの里」体験学習とは異なり、漠然としたテーマであるため、生徒が主体的に課題設定をするために次のようなことを確認した。

- ㉑生徒がもった課題が小さなことでもその意味を受け止める
- ㉒生徒の課題追究が発展するように助言や手助けをする
- ㉓生徒の国語力（文章化する力）に鑑み、具体例を示しながら助言する

課題を模索するなか、渋川だけにこだわらず、「渋川市と比べる」ことで、社会全体への疑問を投げかけるというテーマでもよいこととし、生徒たちには課題とする分野を限定せず、自らの興味・関心に基づいて、課題を考えるよう伝えた。何でもよいと言われて戸惑いを見せる生徒もいたが、多くの生徒は「自分のやりたいこと」を徐々につかむことができた。

また、毎日の学習や生活の記録として活用している「生活記録ノート」により、身近な疑問を意識化させるようにした。日々の疑問や気づきを文章化させることで、生徒自らに意識化させようと考えた。日常生活の中で、「なぜだろう」とか「よくわからないな」という気持ちは常に存在する。しかし、多忙な生活を送るうちに、疑問や気づいた

ことさえ忘れてしまいがちである。生活記録に、毎日一つは疑問や気づきを記入することという制約を与えることで、生徒が生活の中の疑問や気づきを意識することをねらった。生徒たちが記入した事項は、たわいのないものが多かったが、週に一回の総合的な学習の時間のみならず、毎日の生活の中で疑問や気づきを意識できたことはたいへん良かった。

②課題の追究

課題追究は、インターネットによる検索や文献を利用して行った。しかし、地域に関する書籍の数は多くなく、実際にはインターネットに頼る部分が多くなってしまった。

体験活動は、「たくみの里」と同様に生徒自身がアポイントメントをとって、自主的な活動を行った。ただし、原則として公共交通機関を利用させるとした交通手段だったが、一部の地域にはバスの路線網がないために、保護者による送迎を依頼した。



<金井りんご園>

上記の支援により、全ての班が体験活動を実施できた。下記にあげる生徒の感想に見られるとおり、ほとんどすべての生徒が「楽しかった」と感想を述べており、体験活動は、「問題解決的な技能の獲得」の他に、意欲向上としても有効であったと言える。

③課題のまとめ・発表

課題追究資料を基に、実践の成果を個人でまとめた。初めての体験であり、個人で作成することから、レポートの構成が難しいものにならないよう考えた。そこで、今回は時系列的・項目別に調べたことをまとめる構成とし、誰でも書きやすくなるよう配慮した。また、事例を示し参考にさせた。



<老舗のお菓子屋>

(3) まとめ

渋川アラカルトを通して、「自ら課題を見つけ、考え、課題を解決していく力を高める。特に、問題解決的な技能の獲得をねらう。」ことに対しては、おおむね身に付いたのではないかと感じられた。それぞれの生徒が自分の意志を持って課題を立て、主体的に体験・訪問活動を行い、まとめのレポートまで自主的な活動ができていた。

また、「郷土についても認識を高め、郷土に愛着を持ち、学習成果を郷土に還元しようとする意欲や態度を身につける」ことに関しては、「渋川アラカルト（渋川市を知ろう）」という共通テーマが、地域・郷土に限定しなかったことから、「愛着」「郷土に還元」という意識を持たせることが弱かった。

「渋川アラカルト」について、生徒は非常に楽しく感じており、活動に好感を持って接していた。

渋川アラカルトの訪問先と学習テーマ（抜粋）

訪問先	学習テーマ
グリーン牧場	渋川の観光名所を調べ、楽しい観光名所を明らかにし、観光客がたくさん来るような渋川にしよう。
金井りんご園	同じ物を作っている地方と比べ、渋川市の特産物について調べ、どのような違いがあるか調べる。
スカイテルメ	渋川の公共施設について調べ、公共施設の大切さを明らかにし、公共施設が利用しやすくなるようにしよう。

3 東京体験学習

(1) 目的

- 地域学習の一環として、東京について理解を深める。
- 班の行動計画づくりや班別行動を通して、各自が自主的、計画的に行動することを学ぶ。
- これまで各自、各班で取り組んできた総合的な学習についてのテーマにせまる体験学習を計画、実践することでテーマについての理解を深め、興味関心を高める。
- 体験学習の準備や活動を通して、仲間との協力や集団生活のあり方を身につける。

(2) 活動内容

「渋川アラカルト」との関連を考え、班ごとにテーマを設定し、体験学習を計画した。東京での活動ということで、興味・関心での班編制を基本としながらも、安全面からグループの人数が極端に少なくならないように配慮した。



<江戸東京博物館にて>

①課題設定

課題及び体験場所は「渋川アラカルト」に関連があるものを設定させるために、班別の体験学習計画を立案させる段階で、下のような資料を用いて支援を行った。

【資料】班別の体験学習計画を立てよう

- 江戸東京博物館で昼食を摂ったら、いよいよ班別の活動がスタートします。
 - ・東京は、なかなか手ごわいです。計画をしっかり立てること、事前の学習をしっかりやること。
- 活動時間
 - ・昼食終了～15:30上野公園集合 ・昼食は江戸東京博物館の無料休憩所を利用。
- 班別体験学習の計画は総合的な学習のテーマとできるだけ関連をさせて考えましょう。
- 体験学習についてのヒント
 - ・江戸東京博物館をじっくり体験する
 - ・その他の博物館や美術館や施設設備を体験する
 - ・東京のガイド本、インターネット、図書室等を駆使して計画を具体化していこう。
- 移動手段についての学習は絶対必要・全員必要
 - 両国～体験場所～上野公園はJR・地下鉄・バスなどいくつかの交通手段を利用します。

都市交通はたいへん混み入っていて難しいです。出口を間違えただけで、目的地にたどり着けない。

○15:30上野公園集合は全員の大きな目標

全員が集合時間にそろうことが大きな目標です。しっかりと計画を立て、行動しよう

②課題の追究（体験活動）

両国までは割引運賃のこともあり団体行動であったが、江戸東京博物館からの班別行動では緊張した表情が多く見られた。明らかに金島地区とは異なる交通網であったが、ほとんどすべての班が計画通りの見学ができた。

(3) まとめ

各自のテーマをもって東京で体験学習をおこなったが、調べている内容以外にも、様々な都会と渋川の違いを感じてくれたようだ。班行動も時間どおり進み、協力しながら活動できたことで、仲間の良さや集団行動の良さを感じることができたようだ。

また、新幹線に初めて乗ったり、都会を感じたり何よりも班でどきどきしながら、計画した場所に電車を乗り継ぎ、体験し、集合時間に全員が上野に戻ってこられたことは、大きな自信につながったと思う。



<江戸東京博物館にて>



<東京体験の発表会>

4 修学旅行

(1) 目的

- 京都、奈良の日本の伝統的文化に直接触れることによって、各教科における学習を拡充するとともに、伝統文化への興味関心を高める。
- 班の行動計画づくりや班別行動を通して、各自が自主的、計画的に行動することを学ぶ。
- 宿泊を伴う集団行動を通して、社会人としての基礎である集団生活のあり方や公衆道徳を身につける。
- 修学旅行の準備や活動を通して、仲間と楽しく協力することにより、お互いの人間関係を深め、よき思い出を作るとともに、今後の学校生活に生かしていく。

(2) 活動内容

本校は2学年から3学年へとクラス再編成を行うため、進級してからの準備を始めるのでは、期間が短い。そのため、2学年の3学期の総合の時間を充てて、事前学習や事前指導を行っている。

3日間の行程の中で、基本的な活動はすべて班単位の行動とし、特に京都市内を見学するときには公共の交通機関を利用しての活動とすることにした。

①課題設定

情報メディアや先輩からの話により、京都や奈良への漠然とした知識は持っていたが、京都と奈良の違いも理解できていない生徒が多かった。そこで、まず生徒の興味や関心を広げ、仲間との情報の交換を行うためにウェビングを利用した。ウェビングの広がり具合は班ごとに様々であったが、寺院や文化的な物、なかでも昨年度に世間の話題をさらった新撰組に関わるものが多かった。

調査活動は、主にインターネットによる検索や文献を利用して行った。市販の観光ガイドブックも利用した。寺院については歴史的なことがらについて調べさせ、京都や奈良での修学旅行の目的を意識させた。また、活動計画には必ず体験活動を入れることを伝え、文化的な面での調査活動も進めた。

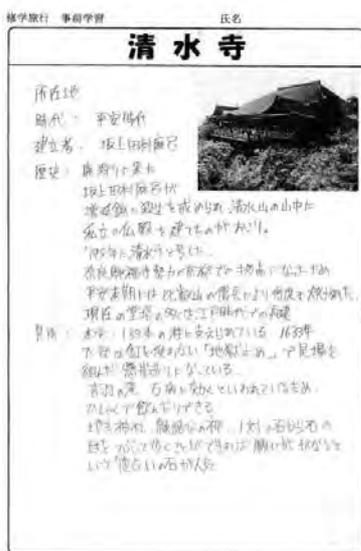
その中で個人の課題を立て、教師側で似ている課題を集めて班編制をした。しかし、3日目の行動をタクシーでの行動にするため1班の人数の制限があり、完全に課題ごとに分かれる班編制にはならなかった。

京都での班別行動については、これまでの活動と同様に公共の交通機関を利用するように伝えた。京都市内のバス路線図や地下鉄路線図の見方に当初は困惑が見られたが、徐々に慣れ、効率的な見学コースを計画することができた。その際、旅行業者とも連絡を取り合い、計画を事前に確認してもらうことができた。

体験活動については、班別行動の計画を立てながら生徒が直接電話連絡をし、体験場所と相談しながら体験時間を決めた。



<ウェビング（京都）>



<事前学習>

②課題追求

(現地での活動)

- 第1日 奈良での班別活動
- 第2日 京都での班別活動
 - ・奈良の旅館を出発し、京都で一日行動
 - ・体験活動
- 第3日 京都での班別活動（タクシー）



<プレスレット作り体験>

③体験学習の生徒の感想

扇子に自分の好きな絵を描き、楽しく体験してきました。届くのが、一ヶ月後と聞いて早く来ないかな？と、首を長くして待っていました。ちょうど一ヶ月後に学校に届いて、すぐにふたを開けて扇子を見ました。我ながら、綺麗に出来て嬉しかったです♪♪

わたしは天然石でブレスレットを作った。トルコ石など見たことも聞いたこともない石もあった。磁石じゃないのに同じ石同士がくっつく物もあった。黒い水晶もあった。全部の石を使って作りたかったが、自分なりにいい物が作れたし、普段見られないような天然石がみられていい体験ができた。

新京極近くで八つ橋作り体験をしました。手本を見て、「意外と簡単な作業だなあ。」と思ったけど、作ってみると失敗ばかりでした。新京極近くでもウロウロと迷ったけれど、何とか八つ橋体験ができ良かったです。

八つ橋はお餅を平たく伸ばしてあんこを包むだけで簡単に作れたので、普通の形だけではなく餃子型八つ橋を作って遊んでみたりもしました。でもあまりにも簡単に作ってしまったので少し物足りなさも感じました。

京都での体験活動場所

体験内容	体験場所
友禅染 扇子作り体験	丸益西村屋
扇子の絵付け体験	舞扇堂
扇子の絵付け体験	京扇堂
八つ橋作り体験	井筒八つ橋本舗
八つ橋作り体験	京都タワー
ブレスレット作り体験	今井半念珠店



<友禅染体験>



<八つ橋作り体験>



<友禅染の扇子（1ヶ月後）>

V まとめと今後の課題

1 実践の成果

(1) 総合的な学習の時間としての成果

1 学年から 3 学年までそれぞれの学年の目標を設定し、3 年間を見通した系統的な指導に取り組んできた。学年が進むにつれて学習の内容や育てたい資質にも深まりと工夫がみられた。

①「課題を発見する」

身近な疑問点や気づきを基に考えさせたり、課題設定のための援助方法を支援者が研究でき、課題設定をしやすくする工夫ができた。課題の発見は後々の意欲を大きく左右することなのでさらに研究したい。

②「テーマを設定する」

自分の考えを生かして学習を進めることができるようなテーマ設定をするよう助言ができた。各学年とも班編制には個人の考えが反映されるよう工夫ができた。

③「追求する」

課題学習のスタイルとスキルの獲得、スキルアップは学年が進むにつれて身に付いてきた。また、調査方法の工夫やコンピュータの活用にも技術の向上が見られた。

④「結果をまとめる」

発表の場面では発表方法を工夫して、自分たちの意見や学習内容をわかりやすく伝えようとする姿勢を高めることができた。また、レポートや発表資料の作成、プレゼンテーションの方法も、学年が進むに従い工夫を凝らしたものが増えてきた。

⑤「他に働きかける」

内容がわかることから自分の生き方について考え、さらには他への働きかけができるところまで高めたい。学年が進むにつれての意識の高まりは見られるが、生き方について考え、他への働きかけをさせるには、様々な支援の工夫が必要である。

⑥「評価」

「支援者が各時間ごとに同一の評価規準を持つ」という評価方法により、同じ観点で評価ができ、支援者が注意深く生徒の活動を観察できるようになった。この方法をもとにさらによりよい評価の工夫をしていきたい。

(2) 伝統文化への意識

郷土の文化や京都・奈良の文化に実際に触れ、体験することによって、生徒の伝統文化に対する意識が高まった。事前学習の中で、自分で調べ、自分で体験学習を計画し、実際に活動することで、生徒たち一人一人の印象に残る経験ができた。

2 今後の課題

生活経験、人生経験の浅い中学生は、自分なりの課題意識しか持つことができない。課題を追求し、成果を生活に生かし、できることを実践するところまでの強く明確な課題意識を持つことができなかった。一人一人の生き方にまで関わられるような明確な課題意識を持たせる工夫が必要である。また、課題意識を持続させ、深めさせるためには効果的な体験活動や支援の方法を工夫しなければならない。

問題解決的な学習を身につけさせるには、総合的な学習の時間だけではなく、各教科の中で課題解決的な学習の下地をつくる必要がある。問題意識を持たせるような授業、問題解決的な授業、調査や体験を取り入れた授業を心がけたい。

関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。(敬称略)

回	年度	発表者	県・学校名	◎講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増渕 増雄 吉沢偏之助 関根武之進	栃木・泉が丘中 千葉・柏中 埼玉・黒浜中		・修学旅行のカリキュラムについて ・修学旅行の安全対策 ・修学旅行の保健衛生について
2	42	高島 栄治 根岸 幸治	茨城・赤塚中 群馬・昭和東中		・修学旅行における事故の発生と対策 ・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	◎宮本 常一 荒幡 義輔 ◎小沼 常治 君島 光夫	武蔵野美術大 埼玉・本太中 東京桜町高校 栃木・南犬飼中		講演 「日本の宿の変遷と修学旅行」 ・修学旅行の問題点の教育的思考 講演 「修学旅行における見学指導の在り方」 ・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉 義 高田 福松 君島 光夫 本間 康一	茨城・水戸五中 埼玉・幸手中 栃木・南犬飼中 千葉・川間中		・安全実施のための運営と問題点 ・今後の修学旅行の在り方 ・生徒の手による修学旅行 ・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45		現地研修会 (京都)		
6	46	◎宮本 常一 人見 芳正 塩入安三郎 兵頭 ヤス	武蔵野美術大 栃木・箒根中 栃木・鹿沼西中 栃木・田沼東中		講演 「修学旅行における望ましい観光の在り方」 ・小、中、高の関連の中で ・わかくさ号で行こうとしたのに ・新幹線を利用して
7	47	◎樋口 清之 高橋 武司 高田 福松	国学院大 千葉・柏中 埼玉・幸手中		講演 「歴史の真実」 ・より効果的な修学旅行について ・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	◎佐藤 政次 高田 福松	茨城土浦日大高 埼玉・幸手中		講演 「歴史と暦」 ・修学旅行の意義と目的
9	49	◎樋口 清之 菊地昌一郎	国学院大 埼玉・加須北中		講演 「旅と情報伝達—忍者の正体」 ・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	◎萩原 進 谷 正久	群馬郷土史家 群馬・古巻中		講演 「群馬の風土と人」 ・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光 糸川 妙子	茨城・古河二中 栃木・藤岡二中		・本校における修学旅行の企画運営 ・我が校の修学旅行の理論と実際 - 自主の気風を目指して -
12	52	坂田 次雄	千葉・松戸三中		・修学旅行における道德教育の実践
13	53	吉田 貫 潮池 ルミ	茨城・水戸二中 埼玉・蕨東中		・充実した修学旅行を目指して ・修学旅行における観察学習を効果的にするために - しおり作成と活用 -
14	54	生方実太郎 阿部 茂	群馬・多那中 群馬・新治中		・集合教育を取り入れた修学旅行 - 生徒の主体的な取り組み - ・有意義な修学旅行にするために - 新幹線における車窓教育 -
15	55	荻部 正夫	栃木・久下田中		・有意義な修学旅行にするために - 奈良公園におけるグループ別活動 -
16	56	天田 和之 平田 幸平	埼玉・岡部中 埼玉・日進中		・東北修学旅行を実施して ・総力を挙げての修学旅行の運営 - 大宮市立中学校長会 -
17	57	鈴木 勝 小川 辰雄	千葉・松戸四中 千葉・吾妻中		・東北へ修学旅行を実施して - 生徒のアンケートをもとに - ・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久 青木 英	茨城・永山中 茨城・見川中		・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて ・生徒を生かして育てる修学旅行を目指して
19	59	◎高橋 哲夫 福原 昭 福本長治平	文部省教科調査官 群馬・中之条四中 群馬・富士見中		講演 「修学旅行の今日的課題」 ・本郡修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
20	60	◎高橋 哲夫 ◎加藤 隆勝 滝田 潔	文部省教科調査官 筑波大学教授 栃木・横川中		講演 「自己教育力を育てる修学旅行」 講演 「現代青少年の心理と集団活動」 ・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎 片山 悦男	栃木・壬生中 栃木・宝木中		・本県修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎 村田小夜子	千葉・南行徳中 千葉・大洲中		・みちのくの修学旅行 ・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美 川上 次雄	埼玉・朝霞四中 埼玉・大宮第二東中		・洛中班自由行動による見学活動 ・自由性を生かした修学旅行
24	63	◎高橋 哲夫 宮本千代子 川上 徹 須藤 和彦	文部省教科調査官 茨城・土浦第六中 茨城・日立豊浦中 茨城・下館中		講演 「学習指導要領改訂の方向について」 ・生徒自身の生徒の手による修学旅行 ・お互いを高め合うグループ別見学学習 ・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
25	平成元	<会場 群馬県厚生年金会館> ◎高橋 哲夫 文部省教科調査官 後藤 秀夫 群馬・小野上中 真庭 幹郎 群馬・沼田西中	講演 「新学習指導要領に於ける特別活動」 ・達成感の充実を目指した修学旅行 ・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<会場 ブラザインくろかみ> ◎渡辺 康隆 栃木県教委副主幹 松岡笑久子 栃木・小山美田中 大滝 伸一 栃木・宇都宮国本中	講演 「研究成果の確認と今後の課題」 ・主体性を育てる班別行動 ・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<会場 志津コミュニティセンター> ◎渡部 邦雄 文部省教科調査官 斎藤 正行 千葉・国分台西中 山田 守人 千葉・柏五中	主題 「 集団の中で自己を生かし協力しあう修学旅行をもとめて 」 講演 「集団の中に自己を生かす修学旅行」 ・リーダー養成を中心にした修学旅行 ・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<会場 埼玉会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 大磯 宏 埼玉・所沢富岡中 藤川喜久男 埼玉・狭山東中	主題 「 教育性を高める修学旅行をめざして 」 提言 「学校週五日制と修学旅行」 ・主体性を伸ばす班別行動 ・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<会場 茨城県立青少年会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 秋田 昌彦 茨城・五所ヶ丘中 安島 一之 茨城・赤塚中	主題 「 自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 提言 「新学力を培う修学旅行」 ・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み ・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<会場 ブラザインくろかみ> ◎大槻 達也 文部省環境教育専門官 田上 富男 栃木・市貝中 古田 真隆 栃木・豊郷中	主題 「 主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 講演 「修学旅行における生徒の自主性」 ・三年間を見直し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 ・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<会場 群馬県生涯学習センター> ◎高橋 哲夫 文教大学教授 今成 保治 群馬・渋川北中 田村 正紀 群馬・池田中	主題 「 主体性を育てる修学旅行 」 講演 「これからの学校教育と修学旅行」 ・集団の行動力を高める修学旅行 ・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<会場 市原市勤労会館> 鈴木 俊幸 千葉・土中 眞野 義幸 千葉・木刈中	主題 「 主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 ・自主性を育む修学旅行の取り組み ・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方
33	9	<会場 浦和市市民会館> ◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 田村 俊明 埼玉・鷲宮中 金子 桂一 埼玉・鴻巣西中	主題 「 主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行 」 講演 「学校教育の転換と修学旅行への期待」 ・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行 ・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<会場 水戸市市民会館> 岩原美智枝 茨城・日立坂本中 坂入 秀範 茨城・下館北中	主題 「 主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行 」 ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして ・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<会場 ブラザインくろかみ> 高塩 博美 栃木・宮の原中 片川 慶子 栃木・毛野中 三芝 直美 //	主題 「 生きる力 」をそだてる修学旅行 ・体験学習を取り入れた修学旅行 ・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	<会場 群馬県生涯学習センター> ◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 高橋 隆雄 群馬・新治中 埴田 栄一 群馬・長野原西中 田中 充弘 //	主題 「 生きる力 」を育てる修学旅行 講演 「これからの学校教育と修学旅行」 ・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行 ・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行 - 総合的な学習の時間を活用して -
37	13	<会場 アミュゼ柏> 田淵 実 千葉・西志津中学校 佐藤 卓 // 池田 保 千葉・湖北台中学校 澁谷 善武 // 水戸 勝英 //	主題 「 生きる力を育てる修学旅行 」 ・体験学習を取り入れた班別自主学習 ・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して - 修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践 -
38	14	<会場 さいたま市民会館おおみや> 渡辺 勝徳 埼玉・神泉中学校 関口 陽子 // 梅津 稔 埼玉・南高麗中学校	主題 「 みんなで創ろう21世紀の修学旅行 」 ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行 ・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行
39	15	<会場 ブラザイン・くろかみ> 生田目 薫 栃木・国本中学校 岩崎 昌美 // 田中 弘子 栃木・栃木西中学校 佐藤 宏行 //	主題 「 みんなで創ろう21世紀の修学旅行 」 ・自己決定の場面を生かした修学旅行 ・体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
40	16	<会場 ホテルレイクビュー水戸> 棚井 義広 茨城・水府中学校 古内 勝己 〃 一色 三千男 茨城・第四中学校	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・修学旅行における国際交流学習の一端 - 「Why don't you come to Suifu?」 郷土紹介のガイドブックを携えて - ・集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方 - 中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して -

表紙写真：片品村立片品中学校「平成 17 年度関西修学旅行」

**第 4 1 回関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会研究紀要**

平成 1 7 年 1 1 月 1 日

発行 関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
[事務局] 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-6-8
TEL 03-5275-6651 FAX 03-5275-6653
E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp
URL shugakuryoko.com